

特71

597

東京工業學校
教授細木松之介

陶磁講話筆記

福島縣



本書は本縣窯業の改良發達を計らんが爲め東京工業學校教授細木松之介を招聘し管内各窯業地の實視を依頼し属柴田友兄を同行せしめ明治三十一年十月二十一日より同十一月三日迄に西白河郡三神村、岩瀬郡長沼村、安積郡福良村、北會津郡若松町大字蘆葦町、同郡川南村、大沼郡本郷村、相馬郡中村町、双葉郡大塚村其他原料地なる耶麻郡金澤村、石城郡内郷村等を巡視せり至る處皆當業者に面接し其製造方法を問ひ且つ製造場を實見し其欠点は之を指摘し改良を要すべきものは之を促かし或は質問に答へ頗る丁寧懇切を極め大に満足を與へたり就中本郷、大塚に於ては同教授の講話ありたるを以て今其筆記を印行し當業者の指針と爲すものなり

77W13849

特 71
597

東京工業學校教授
工學士細木松之介 陶磁講話筆記

○本郷窯業徒弟學校ニ於テノ講話

明治三十一年十月廿七日午前十時開會横田大沼郡長及柴田福島縣屬より細木教授來縣のことを來聽者に紹介し且つ靜肅謹聽あらんことを注意し終りて細木教授登壇す
只今本郡長及柴田本縣屬より御紹介ありし如く私は始めて當地に出張した者で最初本縣から農商務省へ誰れか出張して呉れるよふにどの依頼があつて農商務省より私に相談が懸つた爲め此の度漸く出張する事になりました扱て諸君に豫め御断り申さなければならぬ事は自然當地諸君の御爲めになる事を御話しようとするれば或は悪る口も出兼ねぬものでありますが一通りの人情より申せば言ひ悪いことは大抵の人は控へる併し遠慮なく悪る口が出る位でなければ即ち自己の考へしとを其儘申さなければ却て眞の御爲にならないのであるから何事も遠慮なく御話する積りであります故に面白くなくとも其積りで御聴き取りを願ひます諺にも良薬は口に苦く忠言は耳に逆ふと云ふことがあ
るが實に諸君各人の御爲になること、云ふものは聴き悪い物で私しの云ふ所も此理に外ならず
ありです

一 休縣廳より農商務省へ陶磁の事に通じた人を出張させて呉れと云ふ依頼は前々よりあつたので

私に行けと云ふ相談のあつたのは本年の夏の頃でありました就て私は種々考へましたが度々此の地には學者や斯業に詳しく通じた大家が來られて其折り／＼有益なる講話があつたのを印刷にも爲し遍く諸君の知る所になつて居れども實行せられて居ぬ様子です且つ徒弟學校も出來てある私は東京工業學校に居りますから徒弟學校の學課規則等に就ては相談を受けました爲め當地及此學校の成り行きも承知して居りました昨年此學校の規則を改正せられんとせし時は私は夫れに充分意見を述べましたが不幸にして行はれなかつた其邊より考ふるに當縣の役人當地の實業家の考は如何にや外部に現はれたる事實より考ふるときは學者の説又學問と云ふとは重きを置かないと云ふとに判定が付きました其の證據には當地へ屢々學者が出張して種々講話もあつたが其談しは一時の開流しとして實行せんとする決心なき様です又學校に付ても此の種の學校は國中に幾つも出來ました其學校中でこの學校は一番不完全な者であるとの考へでありました昨年規則を改正してより學問と云ふものには益々縁が遠くなつて居る即ち事實がそうなつて居る前年來られました諸大家の説も實行して居られず故に今度私が申し上げても世に云ふ馬耳東風となるべしと思ふのが第一の理由で第二の理由は職務が煩はしく永く地方へ出て居られず僅かの時日で當地に出張しましても營業に關しての調査も不充分なり又改良の名案も覺束かぬと思ふの二つの理由に依りて斷りました處が再び農商務省より人を媒として依頼せられたるも又斷りました然るに縣廳の事情も知れ農商務省の方

事も知れたる故に其効力は適合へぬと斷りを云ふて參りました故に縣廳に行きても講話をするとは前に述べた二つの理由で斷る積りなりしも是非とも話しをして呉れと云はれたので遂に御話をする様になりました

其話の種に就て考へしに此一兩日に見聞せし處より考ふるに本鄉村及川南村陶磁業の不振に關し是れを進めんには種々のことを詔く取調べ世間の有様も廣く取調べ當地の原料其他萬般のとは勿論能く取調べたる上にて陶磁業の大方針を定め他迄之を實行せねばならぬと云ふとであります製造の事に付て燒方だとか水簾法だとか云ふことは寧ろ枝葉であつて今後の改良の根本の方針を定めざれば何程製造技術の事を喧しく云つても根本の大方針が定まらぬ以上は無効です則ち改良の根本的の大方針が定まらざればいけないのである故に枝葉の製造技術のとは云はずに根本の大切なる斯業の末長く盛になると云ふとに就いて御話をします然し乍ら是れを定むるには當地の營業者の技量習慣人情精神及原料等を良く調査した上でなければ確言せられぬのであるから是れを申し上げるのは時機か少し早いと思ふ然し諸君は此の根本的の方針を定めると云ふ考を出され之を實行するに就きては郡や縣の當局者に充分の骨折を願はなければならぬ又充分骨を折る可きものであります根本を定むるに當り尤も大切なるものは從來尤も當地に疎んせられてあつた學術に充分依頼すると云ふ決心がなければならぬ諸君は學校が設立してあるから良いではないかと云はるゝならんが左様

では決してありませぬ何事を行ふにも學問が根本の力である故是れがないと好結果を奏する事か出来まい夫れに就ては種々の例証がありませぬ茲に陳列しある農商務省より借受たる參考品と當地製造の物品とを比較すれば何れが善良で在か諸君の眼も私の眼も同じで指を西洋品即參考品に屈しませう此れは何故であるかと云ふに一体西洋で磁器の出来初めたのは二百年許り前のもので其の以前は所謂新製は出来なかつた然して日本及支那で出来始めたのは頗る古きとて彼よりは余程古くありませぬ夫れに就ての沿革を申せば和蘭人や葡萄牙人が昔し印度支那等へ貿易の爲め往來しました際に日本や支那の磁器を購買して歐羅巴へ持ち歸りました所が國人の賞賛は非常な物で決して普通の人の手に入るとはなまい夫れは此の磁器が恰かも金銀と其價を同じくして非常な高價な物で帝王及び貴族にあらざれば之を買ふとが出来ませぬだ其譯は西洋では其頃は未だ新製品は何國にも出来なかつたに原因した物でありました夫れよりして西洋の各國の王侯達はその國に之れが出来ぬのは遺憾だと云ふとからして多くの學者に其製造法を攻究せしめた結果は獨逸國で始めて日本製の如き新製品を造り出しました是れが此の製造の初でありませぬ夫れより次第に進歩して遂に今日斯の如く木家本元たる日本支那の製品より數倍の良好なる結果を見たのは皆悉く學力の致す効果である故に日本品は斯く劣つて来たか是れは製造當時の構造、素地及び粘薬の成分、性質、原料の精製、處理等種々研究す可き事あるも充分此等の究理に心を用ひぬ故である西洋は然らず斯の如きとがわれ

は何處迄も究理研究を重ね其學力と經驗に因りて原因を見出さなければ止まない古くは有名なる佛國のパリシイの熱心や近くは佛國のセーヅル獨逸の伯林及びマイセンの官立製陶所の研究は其好例証である又我日本の中でも之を引證するに苦しみませぬ先づ日本の窯業地たる京都、會津、肥前、尾張等の例を引けば肥前は殊に古いのである然るに京都や尾張の如き都會の地に近き便利な所は其道の學者が度々往來する故に屢々有益なる學說講話も聞きし爲め全國の製品に對し測り合ひに進歩してあります第一古く開けし肥前地方は交通不便其他都會に隔離してある爲め學者の説を聞く機會も少なく進歩も比較的遅いのであります

當地の柏村君や築瀬君などの製品を先日一寸見ましたが中々美麗なる者が出来てある是れは容易に諸君の爲す事か出来ぬ者である其故は此の如き新製品は皆學力を源とする者である故に今後諸君は學說や講話を聞き然して是れを實行するのが根本的改良の一原素であらうと思ひます就て今一つ御話し致すのは凡て何事によらず萬事に勝れた人はない否無きにあらざれども世には數へる程しか無きものてす因て當地などの製造を見ますれば種々様々で内國品もあり西洋品もあり何れを何れと極め様か無いのである斯の如くでは廣く世間に名を揚ぐる事か出来ぬ夫れよりも私の考案では此の土瓶なら土瓶急須なら急須に就き外の品物には目を觸れず何處迄も一意専心研究に研究を重ねて充分是れに精神を熟注し世に得意の業として名を揚ぐるに到らしむるは最も吾人の勉む可き個條

六
と思ふ且つ種々の品物に意を注げは職人にも窯元にも何處かに注意の足らぬ点が出来てつまり二兎を追ふ者ば一兎を得ず一として勝れた有名の品を製造するとが出来ぬ事になる故に自然と注文先の信用を失ふは數の免れざる所である故に兎に角何でも宜いと云ふ様では私しは決していけぬと思ふ其所てつまる所の意見は分業的にしたいと云ふのである夫れから一つの窯業地で或る人が珍らしき製造をなして利益を得たと云へば自分も一番之れを模造して之より一層價格を底くして利益を得やうと云ふ賤しき競争心を起し自分から別に良品を製作すると云ふ様な高尚な競争心は無く卑劣極まる精神から一時の利慾に感ふて將來其の窯業地の信用を落すを顧みない者が多くある是は最も戒む可きことである故に過般同業組合規則など云ふ様なものを布きて萬事警誠せられたは是の理に外ならずであります此等の事柄は郡役所や縣廳より特に注意のつた事故私しより殊更らに申上げません次に來年あたりになりませすれば岩越鐵道が貫通して何事も便利の世となるのは一方より考へますれば至極宜ろしいが亦た一方より考へますれば大層困つた事も出来ると思ひます夫れは當地の如き都會の地と離れ云は、遠い山の中の一軒家の如き所では何分にも社會の智識に暗きゆへ此の際を利用して京濱の智識あるものは追々乗り込んで來まして其の暗い處に付け込み製造場を奪ふとか又は大製造場を開きて當地の人と競争を試みやうとかと思ふて待つて居る者が澤山居る次は内地雜居の曉に到りますれば西洋人は學も智も金も持ち居りますから番頭や何にかと云ふような名義の手先を

七
使用しまして入り來りまするは火を觀るよりも瞭然たる次第で特に彼れ等は會津の爲とか又は日本の爲めとかと云ふ様な精神は少しも持ちませぬ又自分の利さへあればと押し寄せ來る者で實に恐る可き者である故に此の如き思ひの無き前に郡役所縣廳の當局者に相談して此善後策を定めて置かねばならぬと思ふ是れは目下魚眉の急務と考慮する所である兎に角先に申した通り是の事に關しても根本を確固ならしむるが大切である就ては昨日あたりも或人と一寸話しを聞きました所が原料の出る山や何かに關し種々心配して居る人もある様ですが未だ確かに其手續に着手した人はない是れも雜居や鐵道の通じた曉には當地の盛衰に大關係を有すると故一日も速く當局者に申し出で相當の處置をして置かねばなりませぬ此れは最も大切なる根本にて此根本が定りてこそ何事も出来るのである然るに此大切なる事に就ても既に既に氣は付いて居るも第一費用の掛る事故迎も之を實行する事が出来ぬとて手を懐にして忙然たる人のみの様です夫れは甚だ宜しくない是を實行するは人にして其方法を慥かにし精神を確かにせば金策の道は幾何もある故に此等の根本を固めるか第一の急務と思ひます次に時間もありませんからもう一ツ申し述べんとすることは是の會津燒の品の改良である一体當地は意匠が宜しくない例へば何品にも同じ模樣を付けると云ふ様で左様なれば何をして世間の人は斯る品には倦きを生じます是れを改良せんと思ひますが今茲に密書の急須がある然して若し此の密書が是の品に適さなかつたなれば徒らに高價の密書を拂つて賣先には其れ丈の價格を

保つことが出来ない夫れよりも之れに筋を五六本引いても此簡短なる書が其品に適すれば價格が非常に出で来ます實に此の判断が此の業に對し大必要である故是れは其の道に通じた人に就き充分調べて行ふが宜しい勿論私には此の道の者でない故是れには充分なる意見を云ふことが出来ぬ次ぎには誰れか適當なる人を撰んで他の窯業地へ出張せしめ充分其道に立ち入りて種々の參考になることを探見聴聞して何處までも改良進歩を計るが必要であるから至急に實行するとに致したい者です尙ほ種々申上げるともありません二日間の調査で精密などは到底出来得ないものである故此れで此席は御免を蒙ります尙ほ佛國巴里大博覽會の出品に關しては當地よりも御出品の方もありませんから私も廿六年の米國芝加哥博覽會にも行き又廣く歐米諸國を巡見したともあり勞々少しく見聞もありません故此の道に付て御話しがあれば出来る丈の御答へを申上げんと思ふ就きまして午前の講話は是れで閉ぢまして午後は博覽會のことに付御話しを致します

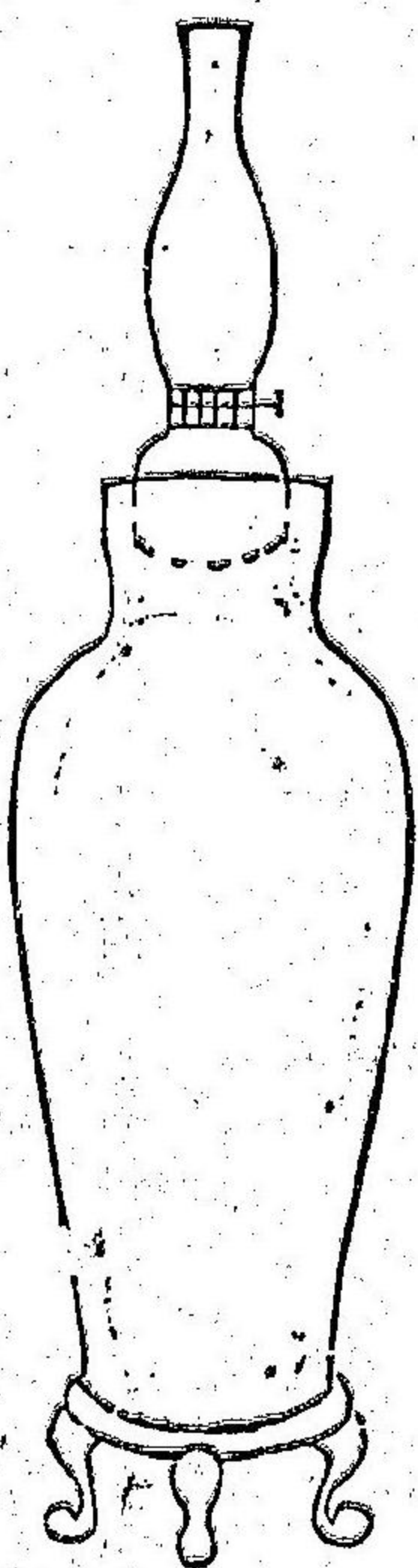
○廿三年佛國巴里世界大博覽會ニ付キテノ講話

今朝程一寸申上た廿三年佛國巴里世界大博覽會へ當地より出品せらるゝに付きまして何か注意すべきことを話して呉れと略聽より依頼されましたが博覽會の事は當地に参りまして初めて承知した譯で

何の用意も致しませず到底満足のとほ出来難いと思ひますが是れまで經驗の二三を申上ると致しませう

夫れで茲には心覺への事を書いた手帳而已で素より順序の無きとを申上るが一体外國の博覽會に出品するには將來一の商品として買込まるゝ品物でなければ感心しないのであります且つ其物が實用品であれば便利な品でなければならぬ是れを撰ぶのは又一番必要である例へば茲に一つの水指がある是れを西洋人は如何に製作すれば好むか且つ其使用者に便利を感せしむることが出来るか能く々々先きの様子を覗つた上で出品するのではないと宜しくないのである一体日本の製造家は日本の使用品の珍奇な物を其儘に外國の博覽會へ出品するのが多くありて唯に其の實用に氣を止めず徒らに見世物的の考にて使用先や便利上に向目を注かず無茶苦茶に出品する者の多いのは困るとである斯る弊害は獨り僻遠の地に限らず繁華開明の都の人にも間々あるとにて此の例は彼の二十六年に於ける志加古世界博覽會に於て日本製の藁繩及草鞋の出品がありました是れは大阪府の出品にて實に笑ふに堪へたる話して西洋人は斯る者を使用するものなきのみならず何等の利益なきのみならず只笑草となるのである故に博覽會の事務官は遂に陳列させませんでした是れは唯だ博覽會を以て一の見世物場の様に思ふ々の失策である大抵博覽會の目的は先きに述べし如く商賣の得意を増加するのが第一位に居るので夫れへ不必用極まる物品を出すは實に笑止の至りと評するの外ありません故に能

く／＼考慮しなければなりません夫れで日本の磁器に致しましても日本の使用品と西洋の使用品とに大層な差異があります故に此事を辨へずして出品致しますれば何事も反對になり不結果を招くことがあります就て茲に在る花瓶のことに付て御話がありますが當時此品が多く外國へ輸出して在りしは下等の薩摩焼が澤山にありましたが全体日本では花生として其用を充してありますに西洋では是れを花生には使用せず洋燈臺にして使用するのであります實に斯の如き差異があるものです
(此時圖を以て實物の講話あり)



斯の如くで花生とするは極く少なく皆洋燈用として使用せられて居る故に是れを出品するには其心組で製造注意を要せなければなりません
斯く日本用と西洋用とは全然異なる事が澤山ありますから能く此の理を考慮せざれば少しも役に立たぬ品を製造することがあります故に土瓶急須も同じ理で其使用法を充分研究して製造するのが必要である且つ形状や模様も所變れば品變ると云ふ謬もありますから日本で好む物だとして西洋でも必ず

好む物だとは云ふを得ず然し極めて高尚なる美術品に到りましては西洋も日本も皆同様であります
が其様な美術品は中々當地では製造することが出来ませぬ故結局一般俗人の好む物を製造するを必要とします是れを使用するの道と知らんには西洋へ行くとか又は京濱へでも出張して其道に通じた人に深く聞くより外に道はありませぬ夫れから價格の事は其の品物さへ取り揃へて良く出来れば随分高價に捌く事が出来ませぬ全体西洋の生活の度は日本よりも非常に高く例へば我々が一回の金を費すのは彼等が五圓か拾圓の金を費すに相當して居ります故に丁度日本より五倍か十倍かの高き生活をなして居ります現に我々が歐米へ行きませしても中々交際費が多額に及びます日本で五錢の品が並物と思ひますれば彼れは廿五錢から五拾錢位の品が並物と云ふ様な次第で日本より五倍か十倍の價を付しても別して驚きは致しませぬ故に其品物さへ好く揃へて確固と致し居れば幾何も買れ口はありませ現に京濱にて製造する品物は運賃も掛りますが輸出すれば概して十倍位の價を持つことになりませ故に博覽會への出品も其品物さへ能く親切に出来て居れば五圓や十圓の高いのには驚かず買れるものであります亦た夫れよりか少しにても粗末となれば低價の上にも多くは用ひませぬ
二ツには其の形状と使用の道であります茲に在る水指の如きは多く珈琲か茶を飲むときの湯入れに供しますが一体西洋にて少しく富有なる人と云へは其客間は非常なる飾り付けにて卓子や茶盆等種々の品物は幾百圓と云ふ高價のものを使用すると故此の水指が不完全で水が尻に廻り又底が粗末

で他の品へ傷を着ける様な品は大に嫌いまして用ひませぬ此の邊の注意は最も必要であります
 次に製造品に猥りに西洋風を摸するは極めて避くべきことであります是れは西洋品の素因を究めず製
 造すれば完全な事は出来ませぬ好しや素人目には實物と差異なき様でも眞に之を識別することの出
 来る人即ち西洋人の目より見れば多少の手落ちがある者で例せば近頃ドレスデンと稱する繪付を日
 本にて眞似る者あれども眞のドレスデン繪とは雲泥の差あり又商店の看板に能く英字を用ひて居る
 日本商人があるが是れは一目美事に能く出来て居る様なれども識者の目より見れば大なる誤りある
 ものなり斯の如く間違はぬ様でも中々同じには行かぬ物にて摸造をなすには眞物を造る程の力がな
 くては充分に出来ぬものです夫れよりは確固たる日本の技術を現はして製造せる方が至當で好評を
 博すのである異々も前述の如き草鞋や藁繩の如きは決して無い事に願ひたい故に外國博覽會出品の
 事に關しては能く其の道に通じた人に就て聞知した上で製造を實行する事が確かである例へば西洋
 畫は一寸見れば無意味の如くなるも矢張日本畫の如くに七福神だとか鶴龜だとか夫々の意味を以て
 描いた物も多くある故其因縁を究めずして猥りに眞似をすれば愁傷の席へ祝賀の品を出し賀席へ不
 吉の物を飾る様な事になりまして結局事理に通せぬ所より甚だしき間違となり全く無用品となり終
 るとあります能く／＼考慮すべきことであります
 夫れから當地は銅板畫が流行せぬ故言はずとも宜しきことでありますが若し此の畫を實行するときは

能く／＼注意して劣物は造らない様にせぬと買込上に大損を生じます次に筆繪にても餘く筆勢のな
 い粗末な畫を描けば銅版と間違はれて大に賣口に害を生ずることがあります是れは何所迄も筆は筆
 の如く勢を以て描かねば宜敷くない殊に下手な密書を一面に描くときは事に依る銅版と間違へられ
 却て念を入れた程の効力なく云は、骨折り損の疲勞儲けとなる故寧ろ落筆に勢あるものを描くを要
 す次に日本品は品物の形狀が蕭いませぬ是れは製作に機械を使用しない所より生ずることが主なる原
 因であると思ふ西洋品になりますと角は角丸は丸と整然として能く蕭ひ恰かも人が禮服を着けて
 端座する様であります日本品は是れに反對で角が丸くなり丸が崩れ丁度不完全不規則極まる懶惰者
 の如き有様にて其容儀が蕭ひませぬ是等は輸出品に就て最も注意を要する所で斯る不容儀の品が西
 洋品中に混合してあれば恰も嚴めしく禮服を着用せる者の中へ容儀の正しからぬ兵兒帶の着流しの
 常人か交りたる様で惡く目立て甚た見苦しひ者であります此れは主として製造が機械的でないから
 迎ても西洋の大市場にて多額に取り扱ふ大商店には取り引きするとは出来ぬ者であります西洋の大
 商人は幾萬の品物の中から千にても二千にても何れより撰んでも十分違はぬ品でなければ喜ひませ
 ん是れは多く小賣店に卸賣するの關係する者です日本品は製造規模の小なるが爲め不揃極まるを
 以て充分此邊の改良をせねば西洋の大商店の賣品に適當せぬ者であります今此の水指を千個同し形
 に注文があれば諸君には大層御困却なさるであらう故に私は此の地では西洋の如く十分違はずに

形状を揃へるとは出来得ぬと思ふ夫れで斯く論じて來ましたつまりの結果は日本品を造るか輸出品
 を製するかを根本的の方針を定めねばなりません夫れには種々な調査も必要であります私
 の存意では諸君に對しましては日本品を製造したまへと御勸め申す少々御話か寄り道を致し
 ますが一寸申て置きます何事も我が國では多く輸出品を製しまして彼れより金銭を多額に
 取らねば他に商工業者の爲すへきとはない様に考へる人も多くあります夫れを何事にも
 應用するのは私には大反對であります全体人間には得手と不得手と云ふが
 ありますが夫れは内國向が得手で外國向は不得手であると思ひます若し輸出品を造ら
 んとすれば多年の習練と各種の知識を要します是れに反して尾張邊の人は西洋品を造
 るのが得手だから得手の物は得手の者に任かせて當地にては内國品を造つた方が至
 極宜しいと考へます即ち分業的に内國品は内國品とし西洋品は西洋品として両方に心
 を奪はれず得手なるものは得手なるものに任かすは却つて國家經濟に適するものであり
 ませぬ恰たかも一の軍隊が外國と戦争を初めて出陣したら後を留守する軍隊は最も必
 用なれば即ち尾張を進軍軍として當地は留守軍たるが如くであります斯くすれば尾張
 の人は内顧の患なくして専ら外商と戦ひて充分の利を得べく會津も亦専ら内國の用
 をなして其利益必ず大なるべし併し世の開明に連れて又た西洋品の製造を實行するの
 期もありません其節は又其時の考として當分の所は私は只今述べた通りの考慮であ
 ります全体西洋人との取引きには幾千でも幾萬でも直ちに注文に應じて期日を誤らざる
 仕度

がなければなりません扱て御話しが後に戻りますが此の度の博覽會に出品致しました所
 で其出品に對して干にても萬にても注文を受たならば悉皆其形状を揃へて約束の期日に必
 ず引渡しの出來るだけの仕度を要しますが當地は失敬ながら其注文に應ずることが出
 來ませぬと考へます故に博覽會に出品した所で品物を見せると云ふ丈にては實際商
 賣上の利益を得るに於て差したる効能もなきと故當地は當地の力に相應する丈けの
 出品に止め置くが必要である此に付ても京濱間の人にて西洋市場の事を能く知る人
 に其説を聞き其形状若書等萬事西洋人に適する物品を製造するが良策なるべし故に誰
 れか出京して此邊の相談をなすのは大必要であります尙ほ了解せられざりし点は充
 分に御質問を願ひます

○大堀尋常小學校ニ於テ講話

明治三十一年十一月二日午後二時開會栗田福島縣屬大木双葉郡書記より細木教授來縣のことを聽衆にの告ぐる等本郷の講話會と同じければ容す細木教授直ちに登壇一應の挨拶をなす衆端座耳を聳つ

前夜宿所へ御出の方より御断のありましたる事に對し御答をなし且つ説明をいたします多少不分りの處もありません

○松木を使用する事

松木を使用するには價が高くて困難であるから石炭を使用する事が出来るかと云ふに此の大堀焼に拘わらず白焼の新製には石炭にても焼けますか日本では松を以つて焼の習慣であります陶磁の需用が内外國共に多くなりまして製造高も澤山になりました故肥前及び尾張邊の如き大製造地では既に近邊の山を伐り盡して他の地方より薪木を取寄ます當地及び曾津邊には斯る事はありませんで誠に幸福です今瀬戸物製造に使用する薪木の代は年々六七十萬圓位は用ゆるも此邊に關する精確なる統計はありませんが兎に角斯く多量の薪木を消費するは甚だしき損であります木を伐る爲には山も禿れるし水害をも起こす等の事があるゆへ木を伐ると云ふことは最も謹むべきことである石炭にて焼くことは東京工業學校にて數年前より試験に着手して居るが金が多く掛るから思ふ様に出來ざる

も石炭で焼くと云ふには窯の構造が違ふ大堀の青窯は石炭にて焼くことは多少困難であると思ふ白
 焼丈けは出来るも壘焼は六ヶ敷い併し素焼だけは石炭で容易に出来る肥前地方では二三ヶ所石炭に
 て素焼をなす者があつた常地の窯の構造は不完全の處が多い其中でも改めたいは高さが低きゆへ澤山
 に積入るとならずして且つ火力の廻りが悪く又出し入れにも悪くから高くするを良しとす尾濃地
 方には古窯と丸窯と二種有が古窯とは古來より有る窯故に古窯と云ふならん丸窯と云ふは文化年間
 に加藤民吉と云ふ者が肥前より習ひ來りし者にて其以前は粗物を焼いて居ました加藤民吉が肥前に
 行きて磁器の焼き方を習てきましてから丸窯を造りましたのであります古窯は幅狭く勾配も急で
 ありますから火力が強くなるために火度に不平均を生ずる故大なる品も不正が出ます併し小さな
 物を焼くには薪が多く入らざるより古窯を用ふ丸窯は幅も廣く火の廻りもほんのりと廻る故に大物
 を焼くには宜し又大物は丸窯に七八分通り積める此の土地の窯は低いから上迄積まれぬから損で有
 りへ頂上まで積む様にするが宜しい然し低くして三段しか積めないが高くしても道具土が悪いから
 夫れも出来ぬ故善き道具土を撰んで高く積むとの出来る様にしなければならぬ而して火力は横の方
 へ直線にばかり通ひて火度の不平均が出来る尾濃邊の窯は火力が最初上へ昇りて夫から下へ降りま
 すから一体に能く火氣が廻る然に茲の窯は積方も悪いが窯も巾が廣くて火が低く丈と巾との割合が
 合はぬから火氣が横に行きまず先ず巾を締めなくとも高さを直すことにすれば色變は出来る様にな

らんが道具土の善きものがなければよく出来ない道具土は石城郡の内郷村に火に強き土が出るから
 取寄せて試験して見たら善かるう四面より火氣が廻はらぬから色が變るのである之を改良するには
 窯を高くして良き道具土を以て高く積むにあり斯くすれば管に色變りのなくなるのみならず同量の薪
 木にて多量の品物を焼くことを得るを以て大いに利益あり色は如何にして變るか變色は窯の構造ば
 かりではない青窯の青色は鐵が出すのである又雅物などの赤くなるは銅の爲にして銅は綠青にもな
 るが之が赤くも青くもなると云ふは空氣と銅との結び合せにて變るものにて空氣が多ければ青くも
 なり空氣少なければ煤や煙が出て赤色となる色が變るは空氣の加減と火の焚き方に依る者なれば之
 を考へて窯の築造方を替へたならば色變りは少なくなります以上窯の構造と火の廻り方の有様を考
 へて見るに火の表は壘が出で火の裏は焼けが悪く又色の變つたり壘の能く出ると出ないと云ふ事
 を推考し數回試験を重ねれば終に了解ができるならん

○壘の事

竹花の土はなせ壘が能く出さないと云ふは土を分拆せざれば體には知れないが元來壘の出るは如何
 なる理かと云ふに仮令は土の板を焼くとするに藥を掛けて夫れを焼けば膨脹するものにて暖かなれば
 伸長し冷めれば収縮する恰も寒暖計の昇降の如く冷熱の爲に多少の伸縮がある一度熱度が昇れば
 一度丈伸びる陶器も之れに同じく伸縮する者なり然れども熱の爲めに物体の伸縮する度は物に依

りて違ふ假りに一尺の生地が三分収縮するをせば差引九寸七分となる然るに薬は一尺に付五分の縮
 少あるときは生地に對し差引二分の不足あり薬の方は生地よりも二分短くなるから夫れ丈壘となり
 て填合せをなすなり故に壘を入れるればはいる割目の出づる所以である砂焼の薬は余り縮りはないが
 青壘の薬は収縮が多いのである竹花の土を砂焼の薬に用ふれば竹花の土の縮まらない様に日ノ岡石
 の如き縮りの少い物を混合すべし又青壘の薬に用ひんとならば収縮を大にせん爲め長石の如き物を
 加ふべし一休瀬戸物に薬が切れるは薬と生地と喰付合か悪いと生地と薬とが離れる疵も出る久しく
 製作し置くに塵がつきて爲めに離れる又薬の粘氣の多きものは収縮も大にして一寸のものが七分に
 なる粘土は縮りが多く粘氣弱き土は収縮も少ない粘氣の大なる土は水があるから乾かぬ粘氣の薄き
 は乾き方が宜しいから薬の粘氣を取るの工夫をするが宜しい薬は元來粘氣の少ない者でなければな
 らぬ水引の悪きは粘氣が多きゆへなり當地の原料には粘氣のある土が多いから此の粘氣を除くには
 砂土を入れるれば宜しい試みに巨山石を素焼にし粉にして用ゆれば切れ方は少なかるべしと思ふ

〇流木と陸運木との相違

陸運の方宜しい流木は木の温度を水に吸取せらるゝから焚て不經濟である

〇ヤマアケ(樺灰)に替ゆる物

樺灰百目に石灰石凡七十奴程を用ゆるが宜しい併し石灰石が全く樺灰の代りにはならず樺灰には炭

酸石灰の外に硅酸質あり然るに石灰石の良質なる物は炭酸石灰のみを含み居るを以て硅酸質ある日
 ノ岡石の如き物を石灰石に混入すれば宜しい石灰石のみにては成分が弱く収縮大にして壘を生ずる
 ならん樺灰の代りに炭酸石灰を用ひて作れる薬は縮は強くなり壘は細かにして數多くなる硅酸を入
 るれば壘は大小何れにても出来る調合次第にて何れともなる

西洋窯は丈高く二段か三段位になつて居り一ツの窯に五ツか六ツの焚き口がある石川縣にて築きま
 したが今ではありませぬ薪木が澤山費へて不經濟だから止めしなり

當地大堀焼に付て大休の御話を致したいけれども短時間に見聞せし事故如何なるものを焼けば能き
 と云ふことは中々至難だけれども一寸云へば今の處では其品物は田舎向の物であるから中等以上の
 人の用に向かないから東京などへは向きませぬ奥羽の開けない土地に用ゆるのであるから今は茲で
 製造するも時勢と土地とに遇て居る段々良い品を造るも宜しいけれども其れは皆様が學問も出來經
 験も積だ上ならば宜しかろうが先賢の改造をして今の中は矢張り深山に製造して金高を多く取るが
 宜しい又土を多く使ふて手重き物を造るから速賃が掛る故に遠方へ持ち行くに困難だ中等以上の人
 は手輕の物を好むに斯る手重き不器用な品は不向である又土を用ゆる分量から云ふも手重き物一個
 を造る土を手輕な器用な品を二個も造れば一代にて盡る土も二代も三代も盡きぬと云ふ理である勉
 強さへすれば随分手輕のものにて中等以上の人の好みに添ふ品も出來ると思ひますから一工夫して

新規の者を造つた方が宜しい人の真似をせず田代さんの真似などは尙ほせず已れの技量を表はして見たらどうでしょう呉々も少しの土を使ふて澤山の儲を得る様にしたものであります今一ッ御話したいのは土は夏は炎天の爲めに乾き冬は水が凍る爲めに水氣を取ることが早い春と秋は土を製造することが多く出来なくて困ると云ふのは酒を搾ると同じく土を搾つて水を取つたら宜かろふ金を掛ければ西洋で出来た土搾器械でも使つたら宜しいけれども當今では布の袋に入れて酒を搾る如き仕掛にて搾るべし又其袋と袋を重ねし間に竹籠の如き物を並べて水の漏出するに便にして初めは靜かに漸次力を加へて搾ることが宜しい

明治卅三年巴里博覽會へ當地から出品する事になつて居るから何か良きものを出品するには如何のものが宜しかんと云ふ御話でありますが元來之れは西洋で多く好むものを出せば宜しいが全体博覽會の目的は國の開明を誇る爲めに出し或は西洋へ賣口を求むる爲め廣告的に出すと云ふものにて夫々目的がある左すれば如何なるものを造ればよいと云ふに勿來燒きの土瓶水指杯は宜しからん西洋人は手輕にして美麗なる品を好むから手輕にしなければ宜しくない砂燒は極上等の品なら宜しいが余り之れは向きませぬと思ふ少しは好む者もあるかも知れないが多くは好みませぬ西洋人の多數は美麗なる繪のあるものを好むから彼れの好む處の品を造らねばならん尤も出品する以上は先きから注文の來るものと覺悟しなければならぬ其時は千でも万でも皆引受けて日限を違へず之れに應

することが出来るか一ト思按せずんばならんと思ふ又東京横濱邊の人で西洋向に馴れ居る人につき諸事開合をして出品する方最も宜しからんと思ひます

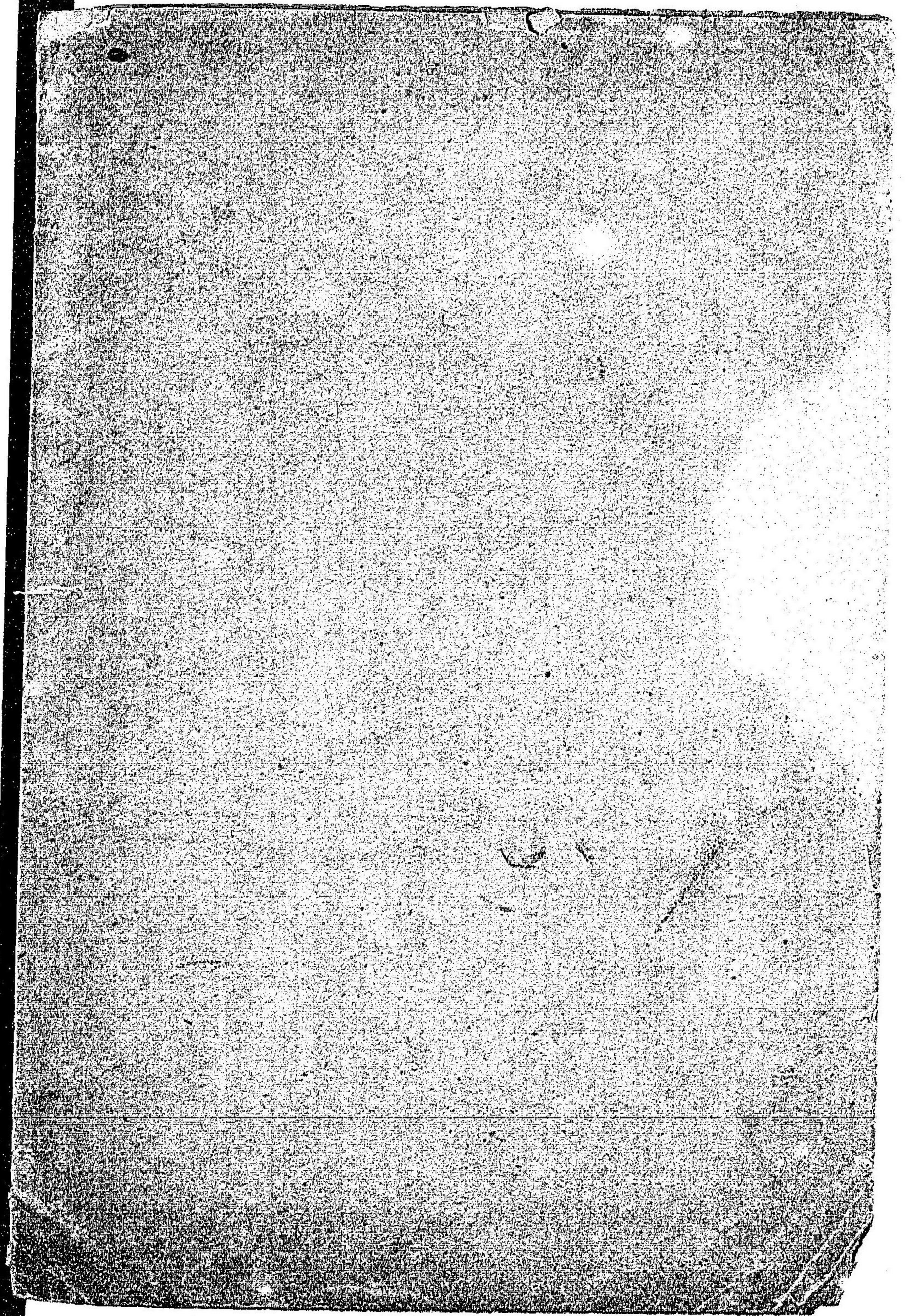
明治三十一年七月十一日印刷
明治三十一年七月十五日發行

福島縣內務部第四課

印刷者 竹 內 宗 平
福島縣信夫郡福島町字本町二十七番地

印刷所 竹 內 活 版 舍
福島縣信夫郡福島町字本町二十七番地

國立國會圖書館



特71

597

301168-000-0

特71-597

陶磁講話筆記

細木 松之介 / 述

M32

CEF-0001

